

第五〇章 サタンおよび墮落した御使いのさばき

I 十字架におけるサタンのさばき

神とサタンの争いは人類創造以前に、サタンが本来与えられていた聖い地位から墮落したことによって始まった。人類の歴史の過程を通じてさまざまなさばきがサタンの上に下った。それは、エデンの園におけるさばきと、創世記 3：15 に記されているサタンの究極的滅亡を予告した宣告にも含まれている。

この同じ真理がヨハネ 16：11 にも言及されている。また、ルカ 10：17、18 もサタンの究極的破滅を予見している。

II 天からのサタンの追放

黙示録 12：7-9 によれば大患難時代のはじめにサタンとその配下の墮落した御使いたちは天から落とされる。10 節にあるような、ヨブ記にも見られるサタンの訴える働きは停止させられる。サタンの敗北はキリストを誘惑し損なったときから、キリストと弟子たちが悪霊を追い出したことで明白にされ、十字架上のキリストの死によって確かなものとなったが、いまや急速にその終わりに達しつつある。

III サタンは縛られて底知れぬ所に投げ込まれる。

黙示録 20：1-3 キリストが再臨され、千年間の統治をされる間、サタンは縛られて底知れぬ所に投げ入れられ、そこで過ごさなければならない。このことによって、これまでしてきたように、サタンはこの世を欺き続けることはできなくなる。また、墮落した御使いたちのことは触れられていないが、彼らもサタンと同じ運命をたどると考えてよいであろう。

IV サタンの最終のさばき

黙示録 20：7-10 を見ると、サタンの究極的なさばきが記されている。彼は永遠の火に投げ込まれる。それは、彼らのために用意されたものである。(マタイ 25：41) そのさばきが永遠で終わりのないものであるということは、千年王国のはじめに火の池に投げ込まれた獣とにせ預言者が、千年王国の終わりにまだそこにいるという事実によって証明される。

墮落した御使いもさばかれる。(Ⅱペテ 2：4、ユダ 6) サタンと墮落した御使いのある者たちはある程度の自由を許され、聖い御使いと神の民に対して戦いを続けて行く。けれども他の御使いたちは縛られ、自由に行動することができないようである。しかしながら、全員が「大いなる日のさばき」においてさばかれる運命にある。

サタンと彼に従った御使いたちはこの世に対して大きな勢力と影響力をふるい、絶えず神に逆らって来たが、彼らの究極の敗北は確実であり、やがて彼らの永遠のさばきがやって来る。神に従う者たちについては、彼らの勝利は確実であり、神の敵たちはさばかれるという事実の中に心を休めることができる。

聖書が明らかにしているようにそこには究極的に二つの判決しかなく、天における終わることのない至福と火の池の終わることのない苦しみである。